

| | | | | | | | | | |
|-------|---------|----|----|--------|------|----|-----|-----|---|
| 教科 | 農業 | 科目 | 測量 | 単位数 | 2 単位 | 学年 | 2 年 | コース | F |
| 使用教科書 | 測量 実教出版 | | | 使用副教材等 | なし | | | | |

| | | | |
|-------|--|--|---|
| 目標 | 測量に対する興味・関心を高め、測量に必要な基礎的知識と技術を習得させるとともに、環境保全や農林業に応用する能力と態度を育てる。 | | |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| | 測量に関する基本的な知識や技術を身につけて課題解決に役立てることができる。実習においては、正確で迅速な測量や記帳、製図ができる。 | 測量を行う意義と役割を把握し、課題解決のために粘り強く取り組み、的確に対処することができる。 | 測量についての興味・関心を深め、実習では積極的に技術の習得を目指し、意欲的に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 実習状況の観察 (実習内容を理解し、行動することができるか) | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 実習状況の観察 (実習内での自身の役割を把握し、的確に判断できているか) | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度の観察 (主体的・協働的に取り組んでいるか、ノートへの記入はしっかりできているか) |

| | |
|-------------|--|
| 担当者からのメッセージ | <ul style="list-style-type: none"> 座学と実習とのつながりを意識して授業に取り組んでください。 実習では特に時間厳守を意識し、服装や身だしなみを正しく整えて授業に臨むようにしてください。 |
|-------------|--|

| 学期 | 月 | 学習内容 学習のねらい | 観点別評価規準 |
|----|--------------|--|---|
| 1 | 4 ～ 7 | ○授業オリエンテーション ・授業の進め方や実習に関する諸注意、評価の仕方などを学ぶ | (知):知識・技術 (思):思考・判断・表現 (態):主体的に学習に取り組む態度 |
| | | ○測量の役割について ・測量と生活の関わりについて理解する ・測量結果の利用について理解する | <ul style="list-style-type: none"> 測量が果たす社会的な意義や役割、測量の現状や今日的な課題について理解している(知) 関数電卓の使い方を理解し、計算することができる(知)(思) 水準測量の高さの基準、レベルや標尺などの器具・機械の構造を理解している(知) レベルや標尺などの器具・機械を点検することができる(思) レベルや標尺などの器具・機械を取り扱う際の注意点を理解し、器具・機械を丁寧に扱うことができる(知)(態) |
| | | ○水準測量に使われる用語、器具・機械について ・関数電卓の使い方を理解する ・水準測量において必要な用語を理解する ・レベルや標尺などの器具・機械の取り扱い方を理解する ・器具・機械を扱う際の注意点を理解する | |
| 2 | 8 ～ 12 | ○昇降式水準測量について ・昇降式水準測量の外業を行い、測定方法、野帳への記入の仕方を理解する ・昇降式水準測量の内業を行い、計算で地盤高を求める方法を理解する | <ul style="list-style-type: none"> レベルの据え付けを正しく行うことができる(知) 昇降式水準測量、器高式水準測量の手順を正しく理解し測定することができる(知)(思) 昇降式水準測量、器高式水準測量の測定結果を正しく野帳に記入することができる(知)(思) 周囲と協力し、最後まで粘り強く測定に取り組むことができる(態) 外業を行う際の、自分の役割を把握し行動できる(思) 野帳の計算で正しく地盤高を求めることができる(知)(思) |
| | | ○器高式水準測量について ・器高式水準測量の外業を行い、測定方法、野帳への記入の仕方を理解する ・器高式水準測量の内業を行い、計算で地盤高を求める方法を理解する | |
| 3 | 1 ～ 3 | ○水準測量の誤差について ・誤差の種類について理解する ・測定値の計算処理について理解する ・誤差の原因と消去法を理解する | <ul style="list-style-type: none"> 誤差の種類を正しく理解し、分類することができる(知) 最確値や標準偏差について理解し、計算からもとめることができる(知)(思) 測定条件に応じて、計算方法を使い分けることができる(思) 誤差の原因に応じた消去法を提案することができる(知) 自分たちの外業を振り返り、改善点を見つけることができる(思) 最後まで粘り強く計算することができる(態) |